

フンボルト奨学金 応募のすすめ

Mit Erfolg zum Humboldt-Forschungsstipendium

藤原 素子*

東京大学
(Universität Tokio)

山田 雅俊†

ハイデルベルク大学
(Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg)

2022年9月5日

概要

本資料は、ドイツの奨学金制度の一つであるフンボルト財団 (Alexander von Humboldt-Stiftung/Foundation) の奨学金 (Stipendium/scholarship) への応募方法をまとめたものです。フンボルト奨学金制度の説明会に参加した藤原による採択率などのデータ説明や、奨学生の具体的一例として山田の経験談を記述しています。

目次

1	フンボルト奨学金制度とは	2
2	採択率	2
3	受け入れ研究機関の見つけ方	4
4	ドイツ研究留学説明会	5
5	応募方法	6
5.1	応募資格	6
5.2	応募時期	6
5.3	応募先	6
5.4	応募書類	6
6	審査について	7
7	奨学金と研究費	9
8	フンボルト奨学生としての行事	9

* 2022年10月からミュンヘン工科大学 (Technische Universität München) 所属

† 2022年11月から吉林大学 (中華人民共和国) 所属

8.1	ゲーテ・インスティトゥート (Goethe-Institut) でのドイツ語研修	9
8.2	年次ミーティング (Annual Meeting)	11
8.3	ネットワーク・ミーティング (Network Meeting)	11
8.4	ドイツ国内スタディー・ツアー (Study Tour for Research Fellows)	12
8.5	その他	14
9	フンボルト奨学生終了後	14
付録 A	リンク集	15
付録 B	世界各地域からの応募者・採択者と採択率の推移	16

1 フンボルト奨学金制度とは

フンボルト奨学金制度は、[フンボルト財団](#)（本部：ボン）によるドイツの教育研究機関で研究を希望する研究者への補助制度です。フンボルト奨学金を受けた者（フンボルト奨学生/Humboldt Fellow）は「フンボルティアーナ (Humboldtianer/Humboldtianerin)」と呼ばれ、フンボルティアーナはフンボルトネットワーク (Humboldt-Netzwerk/Humboldt Network) のメンバーとなり、奨学生終了後も様々なサポートを受けることができます。また、日本には日本人フンボルティアーナによって組織されている[日本フンボルト協会](#)があり、日独研究交流を推進しています。

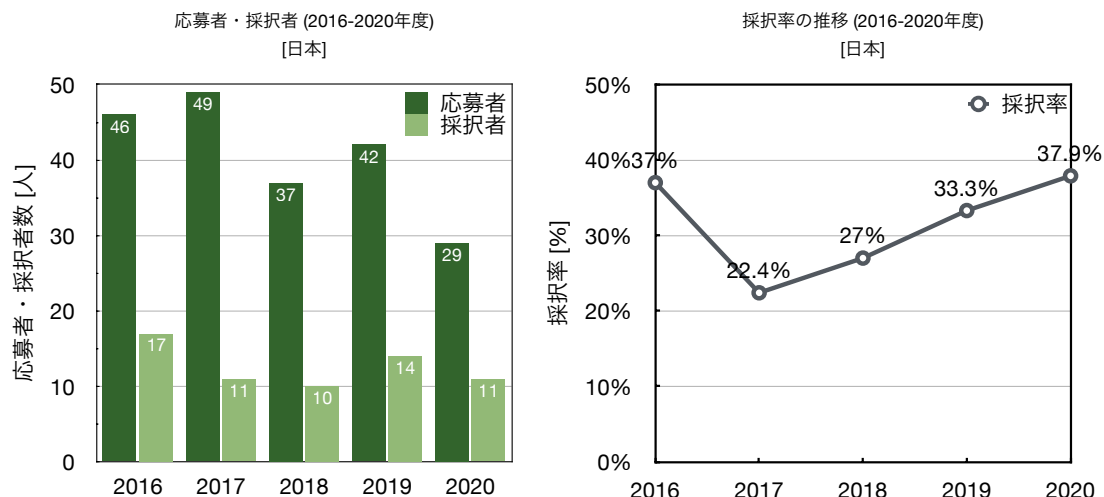
フンボルト財団は様々な補助金制度を行っていますが、本手引きは、**若手外国人研究者（博士学位取得後 4 年以内）**に対する制度である“Humboldt Research Fellowship for postdoctoral researchers”（最短 6 ヶ月間、最長 2 年間）への応募方法を説明します。^{*1} これは日本でいうところの外国人向けの学振 PD のようなものと捉えてもらいたいと思います。しかし、フンボルト奨学金の場合、一度採用されると、途中で中断・再開ができるので、柔軟な制度利用ができます。その他の制度については、フンボルトの[プログラムページ](#)を確認してください。また、フンボルト財団や奨学金制度の歴史や背景等の詳しい説明は、フンボルト財団や日本フンボルト協会のページで確認してください。

2 採択率

フンボルト財団のホームページによると、総応募者のうち 20%–25% の採択を想定しています。日本学術振興会（学振）の特別研究員 (DC1, DC2, PD, RPD) の採択率は 20% 程度（[学振・採用状況を参照](#)）ですから、同程度の採択率です。しかし、2022 年 7 月の[プレスリリース](#)で、ドイツの政治・財政情勢の変化による予算削減に伴い、フンボルト財団への予算も削減され、採択率が従来の 3 分の 2 になる可能性があるとの発表がありました。この影響を単純に反映すると、2022 年度以降の採択率は 15% 前後を推移すると見込まれます。時のドイツの政治・経済状況等によって変化すると思われるので、今後も採択率が減少・増加する可能性があります。

最新の統計資料で示されているこれまでの日本からの応募者数と採択者数を図 1 に示します。毎年 40 人前後の総応募者数（全研究分野）のうち、15 人前後（30% くらい）が採択されています。ちなみに、学振 PD の総応募者数（全研究分野）は毎年 2,000 人前後です。そのうち約 20% が採択されている状況なので、フンボルト奨学生に採用される可能性は学振 PD よりも高い傾向にあります。世界各地域からの応募者と採択者のデータは[付録 B](#)にまとめてあります。

^{*1} 第 5 章でも説明していますが、関連する奨学金として、中堅研究者（既に助教、専任講師や准教授、専任研究員等の研究職位を持ち、博士学位取得後 12 年まで）用もあります。こちらは、サバティカルでドイツに滞在するときに使えると思いますが、若手外国人研究者のときに奨学金を得ていた場合は応募できません。とはいえ、フンボルティアーナになると、同窓生 (Alumni) としてドイツに研究滞在するプログラム（最大 3 ヶ月）に応募することができます。



出典: Jahresbericht 2020 (フンボルト奨学金制度 年次統計報告 2020年版 [ドイツ語]), p.57-60

https://www.humboldt-foundation.de/fileadmin/Entdecken/Zahlen_und_Statistiken/Finanzen_und_Jahresberichte/jahresbericht_2020.pdf

図 1: 日本からの応募者・採択者の年度別統計 (全研究分野)

全応募の内、分野別 (素粒子・原子核・場の理論/物性物理/天体物理・天文学) の採択率は図 2 を見てください。天体物理・天文学分野は、素粒子・原子核・場の理論や物性物理の分野に比べて採択率が高い傾向 (40%–45% 前後) があります。素粒子・原子核・場の理論と物性物理はさほど大きな差は見られません (30%–35% 前後)。

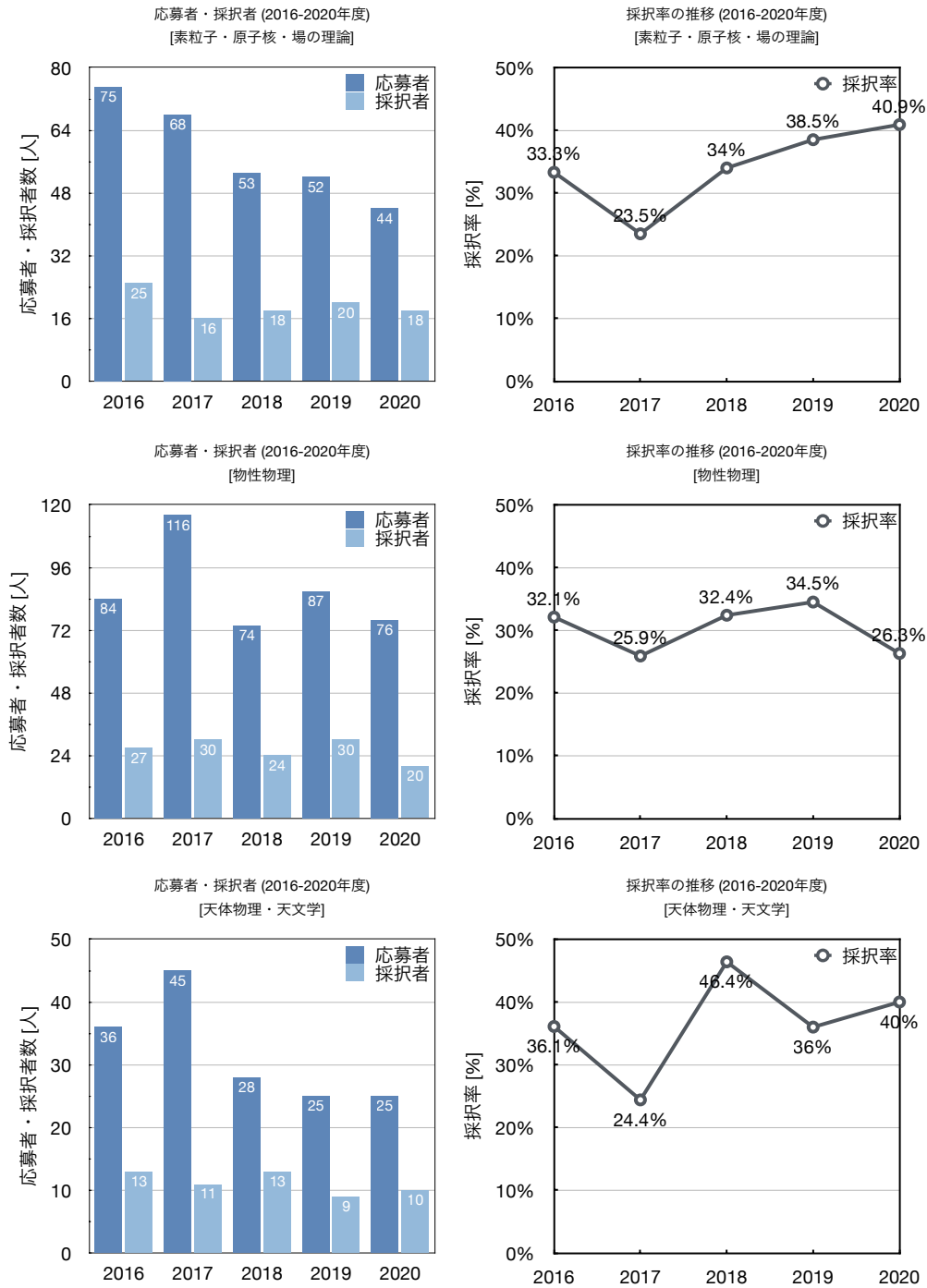
ここで強調しておきたいのは、フンボルト奨学生に採用されるのは簡単ではありませんが、決して狭すぎる門ではないということです。フンボルト財団についての説明 ([About the Foundation](#)) には次のようなことが書かれています。

What is important to us

If you would like to become a member of the Humboldt Family, only one thing counts: your own excellent performance. There are no quotas, neither for individual countries, nor for particular academic disciplines. Our selection committees comprise academics from all fields of specialisation and they make independent decisions, based solely on the applicant's academic record. We support people, not projects. After all, even in times of increasing teamwork, it is the individual's ability and dedication that are decisive for academic success.

つまり、地域や国家、専門分野毎の予めの割当は決められていません。フンボルト奨学金の助成対象は、研究プロジェクトではなく、独創的提案をする研究者です。審査の基準は “the applicant's academic record” (ドイツ語では “wissenschaftliche Qualität der Bewerber”)、すなわち「応募者の学術的能力」のみに依るとするのが財団の考え方です。したがって、たとえ物理学分野の応募者が増えたとしても物理学の研究者採択がより狭き門になるわけではないのです。能力が高いと認められる物理学の若手研究者がより多く応募すれば、その分多く採用される傾向となるはずで

す。しかしながら、学振 PD と比べた場合のフンボルト奨学金制度の知名度の低さもあってか、日本からの総応募者数はそんなに多くありません。大学・研究機関の研究員公募や学振 PD・海外学振などに加え、フンボルト奨学金も研究機会を獲得する一つの選択肢になると思います。この手引きを機に多くの若手の方が応募し、日本とドイツの研究交流を促進するフンボルティアーナになってくださることを期待します。



出典: Jahresbericht 2020 (フンボルト奨学金制度 年次統計報告 2020年版 [ドイツ語]), p.61-62
https://www.humboldt-foundation.de/fileadmin/Entdecken/Zahlen_und_Statistiken/Finanzen_und_Jahresberichte/jahresbericht_2020.pdf

図 2: 各研究分野の応募者・採択者の年度別統計 (全世界)

3 受け入れ研究機関の見つけ方

ドイツの研究機関に興味のある研究をしている人がいるのであればメール等で連絡を取ってみてください。高エネルギー物理学の人であれば、DESY やマックス・プランク研究所などの研究施設も受け入れ機関に選ぶことができま

す。また、教授だけではなく、研究施設の使用・滞在について権限を持っている人であれば受け入れ可能ですので、研究グループを主宰している有期雇用のグループ・リーダーのような人も受け入れ教員として指名することもできます。^{*2} フンボルト研究員を受け入れると、受け入れ機関にも補助金がフンボルト財団から支払われ、受け入れ教員もポストが増えるだけでなく、業績の一つになります。したがって、受け入れ側にも利点があり、フンボルト研究員の受け入れ先に指名してもらえることは決して悪いことではないはずです。何かしらの理由で受け入れられない場合（任期が切れて研究機関を離れる、など）はその旨を受け入れ側が教えてくれて、他の可能性を提案をしてくれる場合もあります。もし何かフンボルティアーナに質問したい場合は、[フンボルトネットワーク](#)から検索し、メールを送ってみてください。何かしらの助言をくれると思いますし、受け入れを希望する機関の教員にあなたのことを紹介してくれるかもしれません。余計な遠慮や日本人的礼儀を気にせず、積極的に連絡を取りましょう。

4 ドイツ研究留学説明会

日本フンボルト協会主催で、フンボルト奨学金に興味のある研究者を対象に「ドイツ研究留学説明会」が定期的に開催されています。奨学金制度に関する一般的な説明や採択状況、若手フンボルティアーナの経験談などを日本語で聞けるので、奨学金制度の情報を効率的に収集することができます。直近で開催された2021年度のオンライン説明会（2022年1月8日開催）は、以下のような二部構成で行われました。

- **全体説明** (40分)

フンボルト奨学金制度について目的や応募方法などの概要説明が行われます。日本国内からの応募者数や採択率の推移（第2章参照）も示され、最近の傾向・分析を聞くことができます。2021年度の冬はドイツで再び新型コロナウイルス感染者が増えていたため、感染症流行による影響にも言及がありました。選考や受け入れは通常通り行われており、渡航制限への特別措置も実施されていると説明されました。全体説明終了後は応募に関する相談会が開かれ、個別の質問に対応してもらえます。

- **専門別分科会** (2時間半)

人文科学・社会科学・理工学・生命科学・医学の5つの分野に分かれて、現在留学中の奨学生や留学経験者と交流・情報交換ができます。各分科会には、司会が2名、若手フンボルティアーナが2～5名が配置されており、いずれもドイツでの留学経験者です。司会・留学経験者のプロフィール（現所属、留学先の機関と滞在期間、専門分野）が事前に参加者に共有され、自分の興味のある分科会に自由に参加できます。はじめに司会者から趣旨説明が行われた後、若手フンボルティアーナによる自己紹介やフンボルト奨学生に採択されるまでの経緯、留学時の経験談などについてプレゼンテーションが行われます。その後は質疑応答に移行し、雑談も交えながら気軽な雰囲気の情報共有が行われます。

2021年度の理工系分科会の参加者は20名程度でした。質疑応答では、ホストの選定や申請書作成に関する助言、ドイツでの生活事情やビザの申請方法など、多岐にわたる質問が出ました。現在留学中の若手フンボルティアーナの方からは、パンデミック前後の状況も聞くことができました。分科会では、ドイツ留学経験者から少人数形式で直接話を聞けるので、奨学金制度応募や留学について具体的なイメージをつかめると思います。

日本フンボルト協会によると、次回のドイツ研究留学説明会は2022年度冬の開催を予定しているそうです。詳細が決定したら[日本フンボルト協会のホームページ](#)に案内が掲示されるので、興味のある方はそちらを確認してください。^{*3}

^{*2} ドイツでは、助教、講師、准教授などの職位はありません。教授かそれ以外です。教授でない人は、グループ・リーダー (Gruppenleiter) という立場で研究グループを主宰していますが、基本的には有期雇用です。

^{*3} 各大学・研究機関のメーリングリストを通して告知が行われているようです。

5 応募方法

5.1 応募資格

“Humboldt Research Fellowship for postdoctoral researchers”への応募資格は以下の通りです。特に下波線の条件に注意してください。

- 博士学位取得後4年以内、年齢制限なし
- 申請者は、応募書類を提出する前の18ヶ月間に、少なくとも12ヶ月はドイツ国外で生活していなければなりません。つまり、応募時から過去に遡って18ヶ月間に、ドイツに短期間（最大6ヶ月間）滞在していても応募資格があります。しかし、住居地に関係なく、過去18ヶ月間のうち6ヶ月以上、ドイツの教育・研究機関からの資金援助を受けていた者、過去18ヶ月間にドイツの教育・研究機関で博士課程のプログラムに従事していた者は応募対象外になります。ですので、例えば、応募時に既にドイツの大学等でポストドクを6ヶ月以上している方は応募対象外になります。

5.2 応募時期

応募は随時受け付けています。受け入れ教員と相談の上、いつ応募するか決めてください。審査については第6章を確認してください。

5.3 応募先

フンボルト財団の[ホームページ](#)に行き、“Apply online”のボタンから応募を行います。

個人情報や学歴、受け入れ機関の情報の入力その他、以下の研究に関する情報を記入します。

- 研究のタイトル
- 研究キーワード
- 研究要旨（最大2,000字）
- 本研究が自身の今後の学術的キャリアの発展に与えるインパクトをどう考えるのか（最大2,000字）

ちなみに山田は、受け入れ教員から「本研究が自身の今後の学術的キャリアの発展に与えるインパクトをどう考えるのか」の項目に、「なぜフンボルト奨学金を求めるのか」を書けとのアドバイスを貰いました。つまり、フンボルト奨学金を受けることが如何に自身の学術的キャリアにとって重要であるかを書くといいと思います。

5.4 応募書類

若手研究者（博士学位取得後4年以内、年齢制限なし）として応募に必要な書類は以下のものです。

- 優秀成績での博士学位取得（6ヶ月以内の取得見込みでも応募可能）
- 一定の公刊業績：業績一覧と、主要業績3点（学位論文を含める）
- 受け入れ研究者の研究計画評価書
- 博士学位取得にあたっての指導教授（主査）からの推薦状、他1名の研究者による推薦状、合計2通
- 研究計画書（最大5ページまで）
 - － 現在の研究内容を5編程度の関連文献を引用しながら簡潔に記述（最大1ページ）
 - － 自身の研究分野で明らかにしたい問題、その分野における進展を与えるような独創性や重要性を記述（2

ページ程度)

- 目的を達成するために用いる学術的な手法を明確に記述 (2 ページ程度)
- ドイツ語の語学能力証明書 (これは任意。理系の場合、英語ができれば十分)

学振のように決まったフォーマットはありませんので、各自 TeX 等で読みやすく書くようにしてください。包括的な文献リストや詳細なタイムスケジュールを記述する必要はありません。なお、研究計画は最大 5 ページとなっておりますが、多少超えても問題ありません。ただし、大きく超える場合は、5 ページに収まるように調整する必要があります。また、研究計画書の内容は、ドイツの大学の受け入れ教員と十分な打ち合わせを行い、共有しておく必要があります (以下の注意事項を参照)。その研究計画書を基に、受け入れ教員は評価書をフンボルト財団に提出します。

応募するにあたり、次のことに注意してください。

- 研究計画書、指導教授 (主査) からの推薦状、他 1 名の研究者による推薦状のそれぞれには、書くべき内容があるので、[応募ページ](#)にある
 - [Information for hosts](#)
 - [Information for expert reviewers](#)
 - [Information for independent peer reviewers](#)

にまとめられている情報を推薦者と共有してください。特に、指導教授 (主査) からの推薦状に書くべき[質問リスト](#)がありますので、各質問に対する回答を推薦状に書いてもらうようお願いしましょう。

- フンボルト財団が支援するプログラムには、ポストク等の若手研究者向けの他に、中堅研究者 (既に研究職位を持ち、博士学位取得後 12 年まで) 向けもあります。どちらか一方しか受けられないので、もし、サバティカル等でドイツに長期滞在 (6 ヶ月~18 ヶ月) するにあたり、フンボルト奨学金を利用するつもりであれば、若手研究者向けは応募するべきではありません。
- ただし、フンボルトの奨学金プログラム終了後も、同窓生 (Alumni) としてのプログラムが用意されていますので、ドイツに再び滞在 (最大 3 ヶ月間) して研究を希望する場合は、そちらに応募します。第 9 章の Alumni Programmes を参照してください。

6 審査について

応募と審査時期は次の通りです。

- 応募時期：随時受付
- 審査時期：3 月、7 月、11 月

提出書類が受付され、全て揃った時点で、上記のうち最も近い月に書類審査が行われます。

採用が決定した場合、採用の 2 ヶ月から 1 年後に奨学生を始めることとなりますが、いつ始めるかは相談して決めることができます。

実際、山田の場合、採用決定通知を受け取ってからフンボルト奨学生を始めるまで、1 年半くらい間が空いています：フンボルト奨学金に応募したのは、2016 年 9 月 23 日 (このとき、京都大学の津村さん (現九州大学) の下で短期ポストクをやっていました) でしたが、その時すでにドイツのハイデルベルク大学のポストクとして 2 年間契約での採用が決定していたので、ドイツでの受け入れ教員 (ハイデルベルク大学の Prof. Jan Pawlowski と Prof. Christof Wetterich) との相談の上、研究計画の評価書を遅らせて提出してもらうことにしました。その間、論文を数本出版していたので、更新した論文リストをフンボルト財団に提出し、受け入れ教員による評価書を含め全ての応募書類が揃ったのは 2016 年 12 月 6 日でした。何らかの理由により、3 月の選考には掛からなかったのですが、7 月の審査で採用が決定しました。採用通知は 2017 年 7 月 11 日に次のようなメールとして受け取りました。

Humboldt Research Fellowship Programme for Postdoctoral Researchers

Dear Dr. Yamada,

The Alexander von Humboldt Foundation's selection committee has considered your application and we are pleased to inform you that you will be awarded a Humboldt Research Fellowship for Postdoctoral Researchers.

In approximately four weeks, the department "Sponsorship and Network" will send you the award letter with the "Guidelines and Information for Research Fellows" as well as further important documents by e-mail. There will be no additional mailing by regular mail.

We kindly ask you to refrain from inquiries until you have received the documents.

The staff of the Selection Department would like to take this opportunity to say good bye. Your new contact person in the "Sponsorship and Network" Department is Ms ***** (e-mail address: *****@avh.de).

We wish you all the very best for a successful stay.

Yours sincerely,

この時、まだポストドクとして残り1年の任期がありましたので、実際に山田がフンボルト奨学生として研究を始めたのは、2018年10月1日からでした。10月1日から1月末までは、ゲーテ・インスティトゥートでドイツ語研修（第8.1章を参照）を受け、実際に研究員として研究を開始したのは2019年2月1日からでした。以上のタイムラインを表1にまとめました。

2016年	9月23日	フンボルト奨学金申請書提出
	10月1日	ハイデルベルク大学・通常ポストドク開始
	12月6日	応募の必要書類（受け入れ教員からの評価書を含む）が全て揃う
2017年	7月11日	採用通知を受け取る
2018年	9月30日	ハイデルベルク大学・通常ポストドク終了
	10月1日	ゲーテ・インスティトゥート通学開始（4ヶ月間）
2019年	2月1日	フンボルト奨学生として研究開始（2年間）
2021年	1月31日	フンボルト奨学生終了

表1: フンボルト奨学金応募から奨学生終了までのタイムライン一例（山田）

不採用であった場合、採用されなかった理由を非公式的にメールでフンボルト財団側に求めることができます。不採用決定自体は覆すことができませんが、結果が確定してから5週間後に申請書の重要な内容（特に不採用であった理由に相当する部分）が大幅に改善されていると認められる場合は再応募が可能です。しかし、不採用が全会一致で決定した場合は、18ヶ月以上待ってからしか再応募できません。

7 奨学金と研究費

若手研究者（博士学位取得後4年以内）の場合、奨学金と研究費は次のようになります。

- 基本給：月額 2,670 €
- 研究費：月額 800 €

通常の給料の場合（大学などに雇用されたときなど）、給料の50%が税金で引かれ、さらに公的健康保険料 (gesetzliche Krankenversicherung/Public health insurance) として14,6% + 追加保険料が掛かります。これらを差し引いて手取りとして大体2,500€程度になります。一方、奨学金の場合、税金や公的健康保険料の支払い対象外です。しかし、なんらかの私的健康保険に加入しないと、滞在許可 (Aufenthaltstitel) が下りません。フンボルト財団からは、保険料の補助として70€程度出ます。これは旅行保険料補助に対応します。これだとカバーできる医療費が狭いので、私的な包括的健康保険 (private Krankenvollversicherung/Private comprehensive health insurance) に入ることもあてでしょう。この場合は70€を大きく超える保険料が掛かりますが、その値段は保険会社に依ると思います。最近、フンボルト財団では、私的な包括的健康保険を50%補助する申請を受け付けているようです。詳しくはフンボルト財団の[保険についてのページ](#)をよく読んで、適宜申請してください。^{*4}

もし、研究開始前にドイツ語研修を行う場合、住むアパートの家賃と街の物価等に合わせて「ポケットマネー」が貰えます。^{*5} 日本とドイツ間の飛行機代は日本学術振興会 (JSPS) が負担しています。補助を必要とする場合は、申請する必要があります。フンボルト奨学生に採用された段階で、財団より連絡が来ますので、JSPSの担当者と相談してください。

その他、どのような補助を受けられるかは、家族構成等にも依りますので、[Sponsorship during your research stay in Germany](#)のページにまとめられていますので、自身の状況に合わせて確認してください。

8 フンボルト奨学生としての行事

フンボルト奨学生に採用されると様々な行事に参加することができます。参考として山田の採択期間に、企画されていた行事を時系列に表2にまとめました。以下では、主要な行事を記述します。尚、これらの行事への参加は全て任意であり、義務ではありません。メールでその都度案内が来ますので、メール内に記載されたURLリンクを通して参加・不参加を表明します。フンボルト財団のページにある[General events](#)も参照してください。補助される旅費等も参考として書いておきますが、それらは当時（2018年から2021年）のものであり、変動する可能性があります。

2020年3月11日に宣言された新型コロナウィルスの世界的流行により、多くの行事は中止またはオンラインによる開催になっていましたが、2022年からは感染対策の下、通常通り現地開催されているようです。

8.1 ゲーテ・インスティトゥート (Goethe-Institut) でのドイツ語研修

[ゲーテ・インスティトゥート](#)は、ドイツ政府が設立したドイツ語学校です。フンボルト奨学生として採用されると

^{*4} 山田がフンボルト奨学生を開始した当初は、財団から50€/月の保険料補助が出ていましたが、途中で(2019年7月1日から)70€/月に引き上げられました。私は、私的な包括的健康保険に入っていたため、月額477€の保険料が掛かっていました。時の情勢や保険会社により変化するので、各自で確認してください。ドイツで多くの学生やポストドクが加入しているのは [Techniker Krankenkasse \(TK\)](#) という保険会社です。私はTKの回し者ではありませんので、ご自身で適当な保険会社と契約してください。ドイツでは、健康保険に加入すると、基本的な治療は全て無料になります。

^{*5} 山田の場合、740€/月が貰えました(2018年10月当時)。ハイデルベルクにあるアパートからゲーテ・インスティトゥートがあるマンハイムまで毎日電車で通っていたので、その交通費も含まれていると思われます。ゲーテ・インスティトゥートの宿舎に無料で入ることも可能です。

2018年	10月1日	Goethe-Institut で語学研修 (4ヶ月)
2019年	2月1日	フンボルト奨学生として研究開始 (2年間)
	4月3-5日	Network Meeting (3日間), ライプツィヒ
	6月26-28日	Annual Meeting (3日間), ベルリン
	8月12-24日	Study tour (12日間), 北ドイツ方面
	11月6-8日	Network Meeting (3日間), ハンブルク
2020年	3月11日	新型コロナウイルスの世界的流行が WHO により表明される
	4月1-3日	Network Meeting (3日間), ケルン [中止]
	6月24-25日	Annual Meeting (2日間), オンライン
	11月18-19日	Network Meeting (2日間), ハレ → オンライン
	12月10日	Advent Concert 2020 (クリスマス・イベント), オンライン
	12月21日	Final report (アンケート) 提出
2021年	1月31日	フンボルト奨学生終了

表 2: フンボルト奨学生としての行事 (一例)

研究開始前に通うことができます。その学費はフンボルト財団がすべて負担してくれます。^{*6}

研修の希望は奨学金応募時に表明します。研修をする場合、2ヶ月間・4ヶ月間のいずれかを選択できます。既婚者の場合、パートナーや家族で参加することができます。研修参加はあくまで任意であり、義務ではありませんが、フンボルト奨学金制度は、ドイツと海外の研究者を結びつけることを目的の一つとしているので、ドイツ語を学びたいという意味は、少なからず選考にも影響するかもしれません。ただし、研修を受けると、フンボルト奨学生としての期間が、研究従事期間を含め、2年±2.4ヶ月になりますので、次期ポストク応募などのために日程調整が必要になります。

研修前に、ネットでのドイツ語テストがあり、その後、通学するゲーテ・インスティトゥートでドイツ語のスピーキング(ドイツ語で Sprach) レベルチェックがあります。ドイツ語を全く読み書きできない・全く喋れなくても問題ありません。講師の判断により、レベルに応じて適切なドイツ語クラスに割り当てられます。しかし、基礎コースに割り当てられても、英語ではなくドイツ語で講義が行われます。^{*7} ドイツでは、次のようにレベルが分けられています。

1. A1 (A1.1/A1.2)
2. A2 (A2.1/A2.2)
3. B1 (B1.1/B1.2)

^{*6} 普通に入学する場合、月額 10 万円以上の授業料が掛かります。さらに、フンボルト奨学生には追加の授業がありました。

^{*7} 始めるにあたり、英語またはドイツ語の基本的な文法用語を知っておいた方がいいと思います。例えば、形容詞は Adjektiv/adjective, 完了形は Perfekt/Perfect, 命令形は Imperativ/imperative など。ヨーロッパ言語での文法用語は、綴りが少し違えどほとんど一緒です。

4. B2 (B2.1/B2.2)
5. C1
6. C2

A1 は基礎、そして A2, B1, B2 と徐々に難しくなり、C1/C2 は法律などの専門的なことまで理解できることが目標になっています。ドイツでの日常生活をドイツ語で不自由なく行うには B1/B2 レベルができる必要があると思います。とはいえ、ドイツでは、多くの場所で（特に若い人には）英語が通じるので生活に支障はないはずです。それぞれのレベルの Goethe-Zertifikat を取るための試験がありますが、フンボルト奨学生として Goethe-Zertifikat を取る必要はなく、したがって試験を受ける必要はありません。個人的な興味関心に従って受けてみてください。^{*8}

様々な目的でドイツ語やドイツの大学に学びにくる世界各国の人たちと交流できます。日本からは楽器演奏（ヴァイオリンやピアノなど）をドイツの音楽院 (Hochschule für Musik, 日本の音大に相当) に学びにくる女性が比較的多い印象でした。彼女らはドイツ語の語学能力証明書 (Goethe-Zertifikat) を取得する試験を受けるために通っている場合がほとんどです。一方、我々はその必要がないので、比較的気楽に受けられます。

8.2 年次ミーティング (Annual Meeting)

年に1度、6月下旬にベルリンで行われます。3日間（最終日は朝食の後、ホテルをチェックアウトして帰るだけです。なので、オンラインの場合は2日間です。）あり、初日にフンボルト賞などの受賞式やフンボルト奨学生代表者名による短い研究発表 (Humboldt Science Slam)^{*9}、そしてドイツ首相によるスピーチ等があります。(Youtube 動画 2019, 2020, 2021, 2022 も参照してください。) 研究員の他、フンボルト財団理事、審査員など、1,000人以上のフンボルトに関わる様々な立場の人が一堂にベルリンに集います。

ホテルはフンボルト財団が手配してくれて、その費用も全額負担してくれます。交通費は、ドイツ鉄道2等車運賃の75%を負担してくれます。食事も朝食晩用意されています。家族も招待の対象ですので、一緒に参加することができます。小さい子供向けの遊び場等も準備されています。

山田が（ドイツ語研修期間を除く）フンボルト奨学生の間（2019年2月1日～2021年1月31日）では、

- 2019年6月26日-28日
- 2020年6月24日-25日 (オンライン)

で行われていました。2019年に行われたときは、最終日にベルリンにある日本大使館に招待され、日本人フンボルトティアーナと駐独大使やドイツにオフィスを持つ大学関係者との食事・交流会がありました。

8.3 ネットワーク・ミーティング (Network Meeting)

年に2度、4月初旬と11月中旬にドイツのどこかの都市で行われます。ミーティングの開催期間は3日間（最終日は朝食の後、ホテルをチェックアウトして帰るだけです。なので、オンラインの場合は2日間です。このミーティングの目的は、ドイツの様々な大学で研究するフンボルト奨学生が集まって研究交流することです。自身の専門分野における他のフンボルト奨学生との交流、議論する機会を与えてくれます。事前に自身の研究テーマに関する要旨を提出します。すると当日、参加者全員の研究要旨をまとめたネットワークガイドが配られます。さらに、ポスター発表や短い口頭発表をすることが勧められています。

^{*8} ドイツの大学に入学するには、B1もしくはB2のGoethe-Zertifikatが必要だそうです。

^{*9} 山田もフンボルト財団から、2020年のAnnual Meeting (online) のHumboldt Science Slamで発表するように招待を受けましたが、既に登録していた別のWorkshopと被っていたので辞退しました。もしやるなら事前に応募動画を作成する必要があるようでした。そして当日は、7,500人くらいのヴァーチャル上の参加者の前で話すことになります。フンボルト財団の本部があるボンにスタジオに来てもいいよって書いてありました。そうするとストーリーミングの準備をしてくれるようです。おそらく、今は現地開催になっているので、Humboldt Science Slamでの発表招待を受けたら大ホールで発表することになるのでしょう。

Annual Meeting と同様、ホテルはフンボルト財団が手配してくれて、費用も全額負担してくれます。交通費は、所属研究機関の最寄り駅から会場付近の駅までのドイツ鉄道 2 等車運賃の 75% を負担してくれます。Network Meeting では、研究交流が目的なので、家族は招待の対象外であり、参加できるのは本人のみとなります。

山田が（ドイツ語研修期間を除く）フンボルト奨学生の間（2019 年 2 月 1 日～2021 年 1 月 31 日）では、

- 2019 年 4 月 3 日-5 日, ライツツィヒ (Leipzig)
- 2019 年 11 月 6 日-8 日, ハンブルク (Hamburg)
- 2020 年 4 月 1 日-3 日, ケルン (Köln/Cologne) : 新型コロナウイルス流行により中止
- 2020 年 11 月 18 日-19 日, ハレ (Halle) → オンラインに変更

で行われていました。残念ながら、私は開催時期にちょうど日本に一時帰国してたり、別件と被っていたためにいずれのミーティングにも参加できませんでした。ケルンで開催される Network Meeting には参加する予定でしたが、登録が遅れてしまい、参加人数上限を超えていたため参加できませんでした。参加したい場合は、なるべく早く登録しましょう。しかし結局、新型コロナウイルス流行によりミーティング自体が中止になってしまいました。

8.4 ドイツ国内スタディー・ツアー (Study Tour for Research Fellows)

8 月中旬に行われるバス・ツアーで、ドイツ国内の都市を約 2 週間かけてバスで周り、ドイツの歴史、産業、政治、文化などを学びます。ツアー中のホテル費や移動費、博物館等への入場料などは全てフンボルト財団が負担してくれます。このツアーには夫婦で参加することができます。

小グループに分かれてツアーをし、1 グループ約 25 人程度です。所属している大学が南ドイツにある場合は北ドイツ方面を周り、北ドイツにある大学に所属している場合は南ドイツ方面を周ります。

山田の場合、2019 年 8 月 12 日-24 日に行われたツアーに参加しました。ハイデルベルクは南ドイツ地方なので、北ドイツ方面を一周しました (図 3 を参照)。



図 3: ツアーの旅程 (フンボルト財団からの提供)

具体的な内容 (一例) を表 3 にまとめてみました。移動や食事時間は除いています。太字の街は、図 3 で強調されている街です。これらからもわかる通り、様々な街をバスで移動します。街間のバス移動が結構長いので、車酔いしやすい人は対策しておきましょう。

2019年8月12日	12時	フランクフルト中央駅 (Frankfurt (Main) Hauptbahnhof) 集合
	16時-18時	ヴュルツブルク (Würzburg) の王宮見学
	18時半-21時半	ワイン醸造所見学とワイン・テイスティング (ハム・チーズと共に)
13日	10時-13時	ニュルンベルク (Nürnberg) のナチス・ドイツ帝国党大会会場見学
	16時-18時	ニュルンベルク市街のガイドツアー
14日	9時半-11時半	ニュルンベルク裁判記念館見学
	13時-16時	ゴルトクローナハ (Goldkronach) の鉱山見学
	19時-21時	フンボルト生誕 250 周年記念の宴会・夕食会/記念展示会訪問
15日	10時-12時半	メーダー (Meeder) の有機農場見学/共同昼食調理・食事
	15時-18時	ヴァイマール (Weimar) のブーヘンヴァルト強制収容所見学
16日	10時-12時	イエーナ (Jena) のマックス・プランク人間歴史科学研究所で研究発表聴講・議論
	15時 15分-16時 45分	ドレスデン (Dresden) のフォルクスワーゲン工場見学
17日	10時-12時	ドレスデン市街のガイドツアー
	12時-翌日	自由時間 (ドレスデン市内)
18日	10時半-15時	ローメン (Lohmen) のエルベ砂岩山脈バスタイ (Bastei) のツアー
19日	10時-12時	ベルリン (Berlin) のライプニッツ水質環境養殖研究所の研究発表聴講と見学
	14時-15時	ドイツ語協会-ドイツ連邦議会の編集チームによる発表聴講・議論
	15時 15分-15時 45分	ドイツ連邦議会のドーム見学
	16時半-17時半	連邦首相府でドイツの政治について議論
20日	14時-16時	リューベック (Lübeck) 市街のガイドツアー
	16時半-18時半	リューベック子供保護センターで発表聴講・議論
21日	10時-12時	ハンブルク (Hamburg) のドイツ気象計算センター見学
	15時-16時	港ボートツアー
22日	13時-15時	パーペンブルク (Papenburg) のマイヤー・ヴェルフト造船センター見学
23日	8時半-10時	ミュンスター (Münster) 市街のガイドツアー
	13時-15時	ボン (Bonn) のフンボルト財団本部の宴会・昼食会 (別グループと合流)
	15時半-17時半	ドイチュ・ヴェレ (Deutsche Welle, テレビ局) の発表聴講・局内見学
	19時-21時	送別夕食会
24日	10時-12時	ドイツ連邦共和国歴史館見学
	15時	フランクフルト中央駅到着・解散

表3: スタディー・ツアーの (食事や移動を除く) 内容 (一例)

8.5 その他

■Advent Concert

Advent Concert 2020（クリスマス会）が2020年12月10日午後7時から [Youtube 上のライブ](#)で行われました。（[Advent Concert 2021](#) も参照してください。）2019年の12月にクリスマス会が行われた記憶がありません。おそらく、2020年当時はコロナ禍真っ只中で、ロックダウン等で人との交流がなくなり、みんな精神的に疲弊している状況だったこともあり、現役の奨学生やネットワークメンバーたちを元気づけるために行われたのではないかと推測しています。

クラシック音楽の室内楽演奏や、ドイツ語によるクリスマスソングを歌う催しでした。事前にドイツ語の歌詞カードがメールで送られてきました。また、クリスマスグッズ（クリスマスキャンドルなど）の入った箱が送られてきたようです。^{*10}

■The German-Japanese Young Leaders Forum

13th The German-Japanese Young Leaders Forum on “Mobility”が、[ベルリン日独センター](#)（Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin(jdzB)/Japanese-German Center Berlin）の提案により、2018年の8月31日から9月9日にポツダムとベルリンで行われたようです。日本とドイツの有望な若手専門家のネットワーク構築とさらなる協力を促進するための機会を提供することが目的だそうです。このとき、山田はまだハイデルベルク大学の通常ポストで、別件と被っていたので、残念ながら参加はできませんでした。ですのでどのような雰囲気だったのかはわかりません。

9 フンボルト奨学生終了後

■Virtual Humboldt Colloquium

“Top Global Research” and the Humboldt Network: New Frontiers of German-Japanese Scientific Cooperation

日本から全員のフンボルト奨学生とその他のネットワークメンバーが招待されます。日独協力の主要なトピックを議論する学際的なフォーラムを提供し、現在の研究活動や共同研究のさらなる交流を促進することを目的としています。

2022年11月17・18日にオンライン上でコロキウムがあるようです（2022年9月5日現在）。^{*11}

■Alumni Programmes

フンボルト奨学生になると、フンボルト奨学生を終了後もドイツに研究滞在するためのプログラムが用意されています（[Sponsorship for alumni of the fellowship and award programmes for researchers from abroad](#) を参照）。Alumni Programmes の[応募ページ](#)から応募します。そのためには、以下の申請書を準備する必要があります。

- 滞在が30日間以内の場合
 - － 完全な申請フォーム
 - － 履歴書

^{*10} なぜか山田のところには送られてこなかった。。。 [Youtube](#) では司会者が「皆さん、フンボルト財団からのサプライズプレゼントを受け取っていますね！」と言って中身を説明していましたが、私はもらっていないので、どこか切ない気持ちでした。。。

^{*11} 2021年11月に東京で開催する予定だったようですが、コロナ禍のため、中止になりました。

- 過去5年間の出版リスト
 - 活動予定の短い説明
 - 滞在する受け入れ機関の学術的な同僚からの招待状
 - 第三者からの資金寄与の詳細（もしあるなら）
- 滞在が3ヶ月以内の場合
 - 完全な申請フォーム
 - 履歴書
 - 過去5年間の出版リスト
 - 研究の概要
 - 第三者からの資金寄与の詳細（もしあるなら）

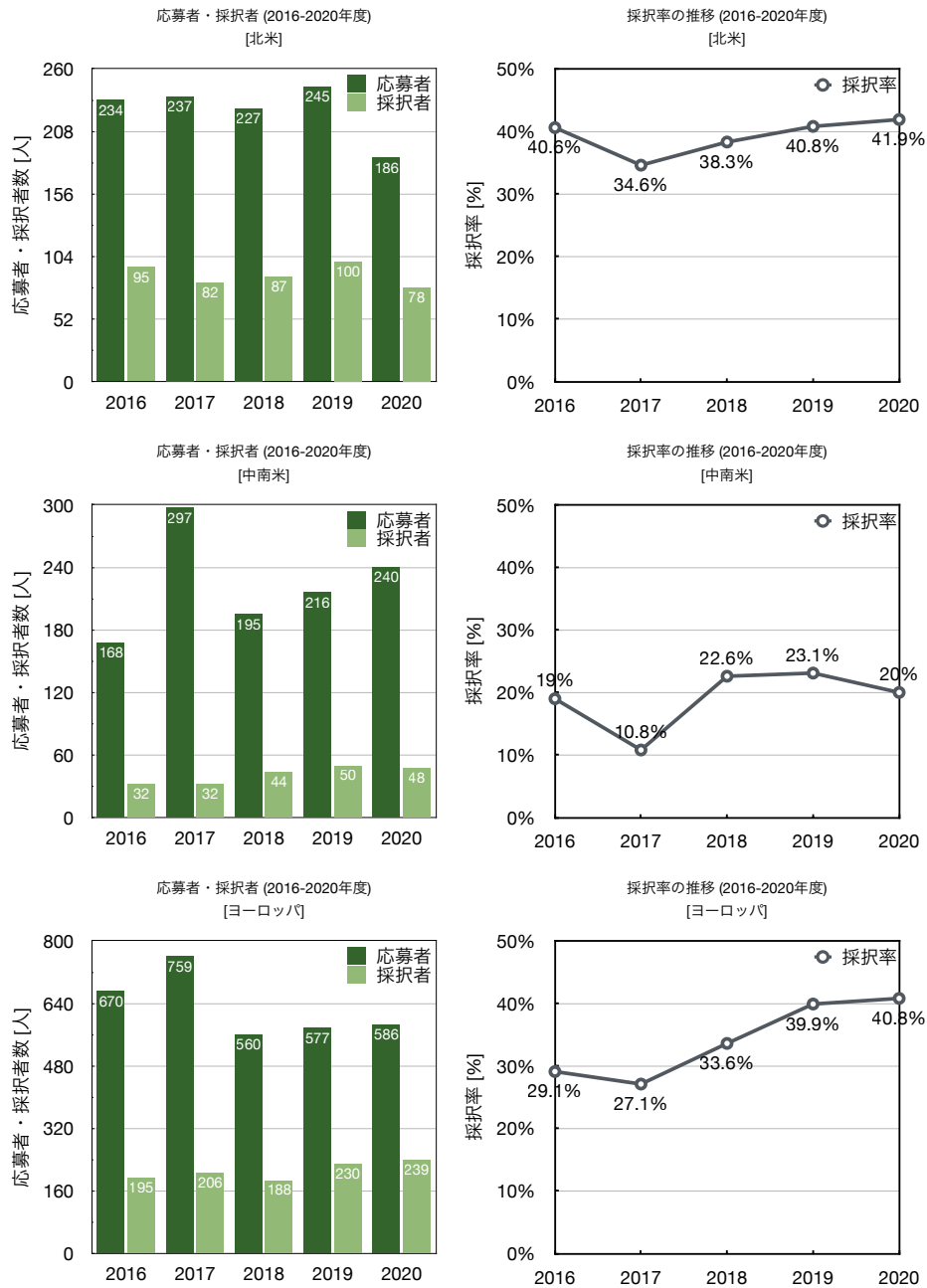
謝辞

この手引きを作成する上で、日本フンボルト協会の高山佳奈子さん（京都大学）に、フンボルト奨学金の年次報告書・採択率に関する最新情報を提供いただきました。この場をお借りして感謝致します。また、いくつかの細かい質問に答えてくださったフンボルト財団の Kaja Seipolt さんに感謝致します。公開前にこの手引きを読んで、コメント・質問をくださった濱田祐さん（KEK）と春名純一さん（京都大学）に感謝致します。

付録 A リンク集

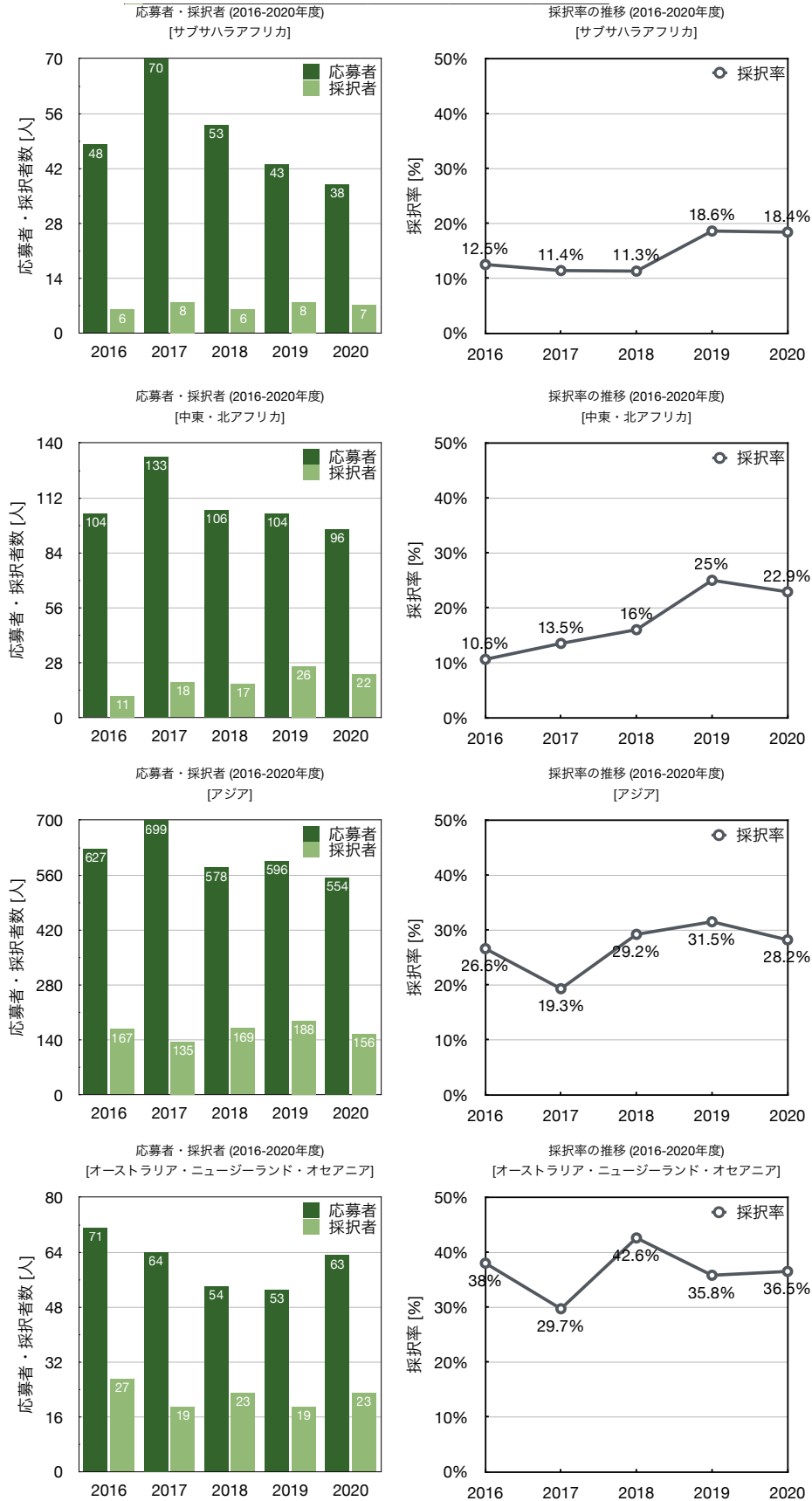
- **フンボルト財団 (Alexander von Humboldt-Stiftung)**
 - [トップページ](#)
 - [Youtube チャンネル](#)
 - [Wikipedia](#)
- **フンボルト奨学金 (Humboldt-Forschungsstipendium)**
 - [トップページ](#)
 - [奨学金制度の概要](#)
 - [応募用 Web フォーム](#)
 - [推薦書を書いてもらう人のための情報ページ](#)
 - [奨学金に関する宣伝資料 \(スライドなど\)](#)
 - [プログラムの年次統計報告 2020 年版 \[ドイツ語\]](#)
 - [プログラムの評価資料 2021 年版 \[ドイツ語\]](#)
- **日本フンボルト協会**
 - [トップページ](#)
- **日本学術振興会ボン研究連絡センター (JSPS Bonn Office)**
 - [トップページ](#)
- **ベルリン日独センター (Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin)**
 - [トップページ](#)
- **ゲーテ・インスティトゥート (Goethe-Institut)**
 - [トップページ](#)

付録 B 世界各地域からの応募者・採択者と採択率の推移



出典: Jahresbericht 2020 (フンボルト奨学金制度 年次統計報告 2020年版 [ドイツ語]), p.57-60
https://www.humboldt-foundation.de/fileadmin/Entdecken/Zahlen_und_Statistiken/Finanzen_und_Jahresberichte/jahresbericht_2020.pdf

図 4: 世界各地域からの応募者・採択者と採択率の年度ごとの統計 (北米, 中南米, ヨーロッパ)



出典: Jahresbericht 2020 (フンボルト奨学金制度 年次統計報告 2020年版 [ドイツ語]), p.57-60
https://www.humboldt-foundation.de/fileadmin/Entdecken/Zahlen_und_Statistiken/Finanzen_und_Jahresberichte/jahresbericht_2020.pdf

図5: 世界各地域からの応募者・採択者と採択率の年度ごとの統計 (サブサハラアフリカ, 中東・北アフリカ, アジア, オーストラリア・ニュージーランド・オセアニア)